

平成30年度 第1回高山市誰にもやさしいまちづくり推進会議 議事要旨

日 時：平成30年6月15日（金） 午後3時25分～午後4時00分

場 所：高山市庁舎4階 特別会議室

出席者：10名

西永委員、谷口委員、高井委員、渡辺委員、日下部委員

小坂委員、林(芳)委員、森口委員、林(哲)委員、西山委員

途中退席者：2名

伊藤委員、野崎委員

欠席者：3名

葛谷委員、村井委員、河本委員

事務局：4名

田中企画部長、北村企画課長、前田企画課係長、山下

1 開会

- ・事務局より誰にもやさしいまちづくり推進会議の目的について説明
- ・委員名簿と配席表による委員紹介
- ・委嘱状の交付

2 部長あいさつ

- ・委員へのお礼
- ・誰にもやさしいまちづくりの見直しに向けた協力をお願いについて

3. 議事（進行：(1)まで企画課長、会長決定後から西山会長）

（1）会長、副会長の互選について

- ・会長は西山委員、副会長は西永委員に決定

（2）見直しの進め方について

- ・事務局より誰にもやさしいまちづくりの見直しの進め方について説明
→特に質疑や意見なし
- ・その後、企画課「現状と課題」に対する意見交換

※各委員からの主な意見については以下のとおり

西山会長（東京都市大学）

- ・事務局から説明のあった見直しの進め方、現状や課題についてご質問等ありますか。

林（芳）委員（（公社）岐阜県建築士会飛騨支部）

- ・見直し作業とは条例を見直すことなのか。

企画課長

- ・課題が解決されれば、必ずしも条例の見直しを前提としていません。課題を解決する為に様々な検討した結果として、条例や規則、指針など必要な箇所の見直しもあろうかと思っています。

西山会長（東京都市大学）

- ・先ほど事務局より説明された見直しの課題 7 つが事前に抽出されていて、これを基に見直し作業部会で議論を深め、まとめたものが推進会議に諮られ議論することとなります。最後にまとめたものをこの部分は条例に反映しなければならないとか、この部分は指針を見直す必要があるといった流れになります。
- ・課題が特に大切ですので、推進会議においては、事務局から提示された課題以外に含めるべき項目や内容、注意すべき点といったご意見がありましたら本日も話いただきたいと思います。

西永副会長（（福）高山市社会福祉協議会）

- ・事務局が設定した課題と方向性については、一つの事例としてあげているだけで、必ずしもこの内容にこだわらなくても良いのか。

事務局（山下）

- ・先ほど説明した課題と方向性は、あくまで事務局の想定でありまして、「例えば」から先の表記については、具体的にどういったことが考えられるのかといった一例をお示ししたものです。

西山会長（東京都市大学）

- ・事務局が考えた方向性を示されただけで、議論の中で変わっていくということです。

企画課長

- ・事務局がお示しした方向性の中で、「例えば」から先の表記については、本当にその手法で良いのかなど十分に練り上げられたものではありませんので、これからの議論を通じてまとめていくことを考えています。

西山会長（東京都市大学）

- ・解決方法は、さきほどのユニバーサルデザイン講演会でもお話した IT などいろいろな手法があるため、これからの議論になるということです。

渡辺委員（（一社）ふるさと体験飛騨高山）

- ・一つひとつの課題をクリアしていく上で、誰にもやさしいまちづくりに対する市の考え方や基本方針、優先順位などがあれば、今後の意見にも反映してくるため教えていただきたい。

西山会長（東京都市大学）

- ・お手元にお配りした資料の推進指針 5 ページ、第 2 章施策の方向性に市のビジョンが書かれていると思います。この推進指針は今も効力があるものでいいですか。

企画課長

- ・推進指針は有効なものですし、策定から年月は経ちましたが今も踏襲しています。今回の見直しにあたり、この推進指針にこういった視点を足したほうが良いといったことがありましたらご意見を賜りたいと思っています。

西山会長（東京都市大学）

- ・推進指針には基本方針が書かれているため、これをベースとして課題について考えていくのですが、そもそもベースを変える必要がないのかについても議論を交わす必要があります。基本方針が変わった場合は、その下にぶらさがっている部分も変える必要が生じるため、ベースが妥当なのかを考えるのも推進会議の役割であります。
- ・市長が出されている想いやスローガンのものはありますか。

企画部長

- ・先日、市長が参議院国土交通委員会へ参考人として招致され、高山市の誰にもやさしいまちづくりの施策の方向性に基づいた話をしています。今後も誰にもやさしいまちづくりを推進することには変わりありません。

西永副会長（（福）高山市社会福祉協議会）

- ・これまでの誰にもやさしいまちづくりの取り組みにおいては、バリアフリーのまちづくりを前面に出し、特に肢体不自由者の障壁の除去を進めたことで全国的にも評価していただいたが、今度の見直しの視点としては、ハードでもソフトでもないようなことに的を絞って特徴づけていくことが必要と考えるがどうですか。

企画課長

- ・委員がおっしゃるように、市は平成８年からバリアフリーのまちづくりに取り組み、平成１７年に策定した条例では、ユニバーサルデザインのまちづくりを意識して制度設計しています。
- ・副会長の言われるとおり、今回の見直しにあたり、ポイントを絞りこんだ高山らしい見直しが出来ると非常に良いと思っていますが、今現在、事務局としての具体案はありません。

谷口委員（高山身体障がい者福祉協会）

- ・私は、身体障がい者福祉協会として上三之町にある観光案内所に居りますが、観光客の方からトイレはどこにあるのかとよく聞かれます。全体としてトイレの数が足りないと感じますし、トイレの場所をもっと分かりやすく案内するなど、観光客にもやさしいまちづくりをお願いしたいと思います。

企画課長

- ・トイレが不足しているのではといったご意見は、他からも伺っています。需要と供給のバランス、設置場所などの検証が不十分とも感じています。また、トイレへの案内は、どうしたら誰にとっても分かりやすいものとなるのかは非常に大切だと思っているため、これから西山会長のご指導もいただきながら見直しを進めていきたいと思っています。

西山会長（東京都市大学）

- ・余談ですが、昨年高山へゼミ合宿に来た学生たちの研究においても、トイレに困っている人が多かったという指摘がありました。また、災害など有事の際、スムーズに避難できるようにするにはどう備えるべきかという視点についても意見が多く出されました。

企画部長

- ・災害については、観光客向けのマニュアルを作成していますが、観光客の方々やホテルなど受入側に十分周知されているか疑問であり、実際に何かがあった際にはどうするといった視点が不足していると感じています。災害の視点を誰にもやさしいまちづくりに盛り込む必要があるのか、また盛り込むとしたらどのような手法が良いのかといった議論も必要と思っています。

西永副会長（（福）高山市社会福祉協議会）

- ・災害はいつでもどこでも起こり得るもので、観光客だけではなく、施設入所者や足腰の不自由な高齢者にとっても、重要な視点であります。今回の見直しの特徴としては災害を取り上げるべきだと思うがどうですか。

西山会長（東京都市大学）

- ・観光客や住む人にとっても関わりが大きいので、災害というキーワードは入れておいたほうが良いと思います。

高井委員（高山地域介護保険事業者連絡協議会）

- ・異性介護をされている方、特に認知症の場合、男女トイレ内の多目的トイレではない、誰でも使えるトイレがあると利用しやすいのですが、市にはそのようなトイレが少なく困ってみえる方が多いため、こういった視点も盛り込んでもらいたいと思います。

小坂委員

- ・LGBTの方から、高山では気軽に入れるトイレが少ないとの声があります。着替える場所とまでは言いませんが、トイレくらいは気軽に入れると良いと感じます。

西山会長（東京都市大学）

- ・LGBTの方は、男性が青、女性が赤というサインの色ですらバリアになっていて、黒色にして欲しいといった意見もあります。それぞれの想いがあるため、様々な方からのご意見を聞ける場があると良いし、推進会議においても注目していきたいと思っています。
- ・皆様からのご意見については、大学連携センターが中心となり作業部会での議論も踏まえた結果が示されます。第2回推進会議において議論させていただきますので、よろしくお願いします。

4 閉会

企画課長

- ・今日は長時間にわたりご参加いただきまして、誠にありがとうございました。今後とも見直しに向けてお力添えいただきますよう、何卒よろしくお願いいたします。